

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2021年度 パフォーマンス向上会議情報(2021年6月21日(月)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2021年6月21日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【表計算ソフトの予期せぬ動きによる個人線量情報データの書き換えについて】</p> <p>協力企業から個人線量通知表の線量値について問い合わせを受け、当社管理箇所が確認したところ、2020年9月～11月の個人線量値に誤りがあることを確認。</p> <p>調査の結果、個人線量の算定を行うシステムで使用している表計算ソフトにおいて、当月分ファイルを開いた後に、同じ関数と関数の引用先が入力された前月分ファイルを開くと、当月分ファイルのデータが、前月分ファイルに書き換わってしまうことを確認。</p> <p>調査の中で、ファイルのデータに関数が入らない形で保存した場合は、データの書き換えが起こらないことを確認。</p> <p>線量情報データの書き換えが行われた人数は調査中。</p> <p>調査が完了次第、データを修正し、個人線量通知表の差替えを行うとともに、国、県、周辺自治体、並びに労働基準監督署の報告書の修正を行う。</p> <p>今後、原因および再発防止対策を検討。</p>	G II	6月16日
2	<p>【地下水バイパス一時貯留タンクグループ1の貯留量の誤記について】</p> <p>6月17日、当直員が地下水バイパス一時貯留タンクグループ1の海洋排水操作前確認において、貯留量が排水前分析結果と相違していることを確認。</p> <p>(正)2108m³ (2110m³) (誤)2018m³ (2020m³) ※()内は公表値。数値を四捨五入して記載。</p> <p>確認したところ、当直員が排水前分析依頼時に作成する「貯留水試料採取依頼およびサンプリングチェックシート」(以降、チェックシートという。)の貯留量を誤って記入していたことが判明。</p> <p>貯留量は、タンク水位と係数、タンク基数を用いて算出しているが、当直員が算出した貯留量をチェックシートに記入する際、誤った値を記入したことが原因と思われる。</p> <p>当該タンクの水位は排水前分析依頼時以降においても有意な変動が無いこと、およびタンク廻りに異常が無いことを確認し、チェックシートの貯留量を訂正。</p> <p>その後、排水を実施。</p> <p>貯留量は、排水可否の判断には用いていない。</p> <p>また、貯留量の誤りであり、排水前分析結果には問題はない。</p> <p>当社ホームページに公表している「地下水バイパス一時貯留タンク水 排水前分析結果」と会見時配布資料の当該貯留量を訂正済み。</p> <p>今後、再発防止対策を検討。</p>	G III	6月17日